

患者が変われば 医療が変わる 医療が変われば 地域が変わる



島根益田がんケアサロン 代表
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの(株)フジキン総務部部長兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンで益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される(カイアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

第34回 癒しを求めて

2016年12月金沢の「元ちゃんハウス」、2017年1月東京のマグイズ東京を見て回る機会があった。両方とも最先端の癒しの場でそれぞれ特徴があり素晴らしかった。その感想を書いてみたい。

まず金沢の元ちゃんハ

オープンスペースが癒しの空間に

ウス。西村先生ご夫妻、スタッフのみなさん方が迎えて頂いた。金沢出身の私にとっては数年ぶりの訪問であった。金沢大M先生とその場で落ち合った。元ちゃんハウスの場所は兼六園の近くの高台にあり、偶然にも私が通っていた中学校の真ん前であったので懐かしさは倍増。4階建てのビル全てを使い、2Fが主たるいやしのスペースだった。家具はすべて木製で、広い畳のスペースあり、ソファもあり、気を休めるには最高の場所。オープンキッチンが備えてあり、台所のテーブルでお茶を飲みながらの談笑となった。

元ちゃんハウスを作るきっかけとなったのは、西村先生ご自身ががんを患って患者の気持が分かり、患者にはこのような癒しの場が必要と感じられ募金を集められての開設と聞いた。地元の協力もあってらしい。

マグイズ東京はもっと規模が大きい。ゆりかもめ市場前駅から徒歩5分程度の場所。近くには運河があり、遠くには高層ビルや東京タワーも臨める。福井大学S先生、T先生とご一緒の視察となった。

平屋建て2棟が渡り廊下で結ばれている。入ってすぐに1枚板の大きなテーブルがあり、その場が主たる面談の場になっていた。横には大きなオープンキッチンがあり、お茶を飲みながら談笑出来る場であった。その他いろいろな形の部屋があり安心して居られる空間だった。

2件ともオープンキッチンが主たる場を占めている。平素島根にいると海が見えて、山が見えて、風光明媚なのだが、マグイズ東京では違った感覚を私に見せてくれた。高層ビルや東京タワーといった遠くに視点を合わせる目標物があるとそこに視点を合わせると、目標物がないとただ漫然と遠くを覗いているにすぎない。視点を合わせることで、心に残るか残らないかの差となるのだろう。